

第58回ブレイクスルー研究会議事録

「データ収集からデータ有効活用価値創造新時代におけるデータマネジメントの展開」

1. 日時：2018年9月18日（月）18時から20時
2. 場所：政策研究大学院大学4B研究会室
3. 参加者：15名
4. 講師：三橋秀之氏（トレジャーデータ株式会社 取締役）
5. 内容：(要約)

1) 会社紹介（従業員200名）

- ・2011年米国に設立（創業者芳川裕誠氏—ソフト開発の米レッドハットや三井物産、太田一樹氏—**ハドゥーブ**のユーザーグループ、人工知能（AI）開発のプリファード・ネットワークス（東京・千代田）の前身企業で当時CTO、古橋貞之氏—ソフトウエア・アーキテクト、未踏グループ）

*米国シリコンバレーに設立された米国トレジャーデータ社は、設立以来企業が扱う大量のデータを、リアルタイムで収集、統合するための仕組みである「データマネジメントソリューション」を提供。

*“泥臭い部分”であるデータの収集/集約にこだわり続けてきた。順調な成長の背景には、Treasure Data自身がFlentdやembulkの開発を含め、データ基盤技術に対する継続的な投資を行ってきたことが大きい

- ・2018年8月ARMと合併。

*トレジャーデータ株式会社（本社：東京都千代田区、取締役：三橋 秀行）

以下「トレジャーデータ」とソフトバンク株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長執行役員 兼 CEO：宮内 謙、以下「ソフトバンク」）は、データドリブンなマーケティング事業の拡大を目的に、トレジャーデータのカスタマーデータプラットフォーム「TREASURE CDP（トレジャーシーディーピー）」とソフトバンクの広告配信プラットフォーム「SoftBank Ads Platform（ソフトバンク アドプラットフォーム）」の連携を視野に入れた協業に合意。

トレジャーデータでは、オンライン広告やマーケティング、CRM（Customer Relationship Management）領域のデータをはじめ、顧客一人一人の行動データや属性データなどを統合するカスタマーデータプラットフォーム「TREASURE CDP」を提供しており、すでに日本国内で300以上の企業が導入している。また、さまざまな企業が提供するマーケティング関連ツールやサードパーティーデータと「TREASURE CDP」との連携を積極的に進めることで、より多くの企業がパーソナライズを軸としたデジタルトランスフォーメーションを実現できるよう、取り組んでいる。

*Hadoop（ハドゥーブ）は、データを複数のサーバに分散し、並列して処理するミドルウェア（ソフトウエア基盤）です。テラバイト、ペタバイト級大容量

量データの分析などを高速処理できるため、「[ビッグデータ](#)」活用における主要技術として活用が進んでいる。Hadoop では、1 台のマスターサーバと、その配下につながる多数のスレーブサーバが連係プレーでデータの高速処理を行う。データ処理全体の流れをコントロールするのがマスターサーバで、実際の計算処理は配下のスレーブサーバが手分けして行う。したがって、スレーブサーバの台数が多ければ多いほど処理能力は高まり、爆発的に増大するデータを高速で計算処理できる

2) 自己紹介と会社経過

- NEC、ベンチャー、レッドハット（2001年～オープンソース事業）、その後2014年トレジャーデータ日本法人代表取締役。現在取締役。
- 2011年 米国で起業、2013年 データ1兆件、2016年 データ70兆件、2017年 100兆件、2018年 ARM 約666億円で買収。
(オープンソースをベースにしてサービスの原動力を構築)

*ARMではデバイスからデータまでを一貫して管理できるIoTプラットフォームの実現を目指していく方針だ。具体的にはTreasure Dataと同じく最近買収したStream Technologiesの持つ技術をIoTデバイス管理サービス「Arm Mbed Cloud」と融合。あらゆる規模のIoTデバイスおよびデータを、シームレスかつセキュアに接続し管理できるプラットフォーム「[Arm Pelion IoT Platform](#)」を提供する。

3) サービス内容

*多種大量なデータを即時に収集・分析し、外部システムとの連携を実現するクラウドベースのデータ管理基盤を構築。スマートウォッチから自動車まで、グローバル企業を含む300社以上のデータマネジメントをサポートしてきた。現在同社のプラットフォームでは1秒あたり200万件ものイベントを処理し、1日あたり数十万のクエリと120兆件のレコードを処理しているという。

*ARM、Stream Technologies、トレジャーデータの持つテクノロジーを掛け合わせることで、「あらゆる数もしくはあらゆる種類のデバイスとコネクティビティに対応し、企業内外含めあらゆる種類のデータを扱うことができ、あらゆるクラウドと接続できる」水平的なプラットフォームを実現し、企業の様々なデータ活用のニーズに応えていくことを目指す。

- エンタプライズCDP（カスタマーデータプラットフォーム）

CDPのイメージ

データ収集 → データ統合 → チャンネル配信（マーケティング施策／広告施策／CRM施策）

- I o tプラットフォーム

ARMは、最近買収した Stream Technologies の持つ技術を IoT デバイス管理サービス「Arm Mbed Cloud」と融合。あらゆる規模の IoT デバイスおよびデータを、シームレスかつセキュアに接続し管理できるプラットフォーム「[Arm Pelion IoT Platform](#)」を提供する。

またコネクティビティー接続性を確保。キャリアに依存しない。

3つのコンポーネンツでマネジメント。

- I o Tの応用分野

農業／テレマティックス／物流／工場管理等

- コンピュータ及びソフトの経過（I T産業の潮流 詳細説明一省略）

- C D Pの特色

セグメントデータとサービスの連携／内部に接続サービス／結果としてデータマーケティングとして統合／マーケティングテクノロジーのツール群（巨大）／広告系にリーマンショック後技術者が流れた／カスタマーデータプラットフォーム重要／パートナーエコシステム

- 次世代C D P（2016年以降）

顧客の理解が重要／C D Pソリューション（顧客との関係で何故売れたのか？等WHYやHOWが解るようになった。例：WEBのどれを見たのか解析。／コンテンツ解析（カテゴライズー機械学習で行う）

*TREASURE CDP は、顧客ひとりひとりの行動データ／属性データなどを統合し、パーソナライズを軸としたデジタルトランスフォーメーションを可能とするソリューション。今回は新たに、コンバージョン済みのデータを AI が学習し、予測モデルを生成することで、今後コンバージョンする可能性のある顧客を自動的に予測する機械学習機能「予測リードスコアリング」が追加された。トレジャーデータの機械学習の専門家がカスタマイズをサポートするため、TREASURE CDP の利用企業はすぐに同機能を活用できるという。

／セグメント／ダッシュボードで可視化

- 課題（C h a l l e n g e）

①B o o k i n g（受注拡大）

②H o w t o G R O W

③C h u u n（無料動画）

④M a n a g e C h u u n

⑤トレーニングの提供

⑥C o s t & O p e r a t i o n

⑦セキュリティー（U n i q u e T e c h（ターゲットデータベース）、

F l u e n t d（Treasure Dataが開発するオープンソースプロダクト）等）

*Treasure Data が技術的にユニークな点は大きく 2 つある。ひとつはオンプレミスのバルクデータをごく短い期間でクラウド上に移行できること、もうひとつは移行後はそのままクラウド上でのデータ収集に切り替え、分析までワンストップで行えることだ。

⑧人材確保

⑨Minimal IT Asset

⑩Digital Transformation等

(文責：主査 旭岡叡峻)

*は検索追加説明